

2025 年 7 月 9 日

**【全日本ラリー選手権 第5戦 / 北海道ニセコ町 周辺】**  
**今年も北海道ニセコ地域を舞台に開催されたグラベル初戦の「ARK ラリー・カムイ」、**  
**最高峰の JN-1 クラスで奴田原文雄選手組が待望の Rally2 マシン初優勝を飾った！**

全 8 戦で競われる 2025 年の全日本ラリー選手権は後半戦に突入、第 5 戦は今シーズン初のグラベル(未舗装路)ラリーとなる「2025 ARK ラリー・カムイ」が 7 月 4 日(金)～6 日(日)に北海道のニセコ町を拠点に開催され、最高峰の JN-1 クラスに参戦する奴田原文雄選手／東駿吾選手組がトヨタ・GR ヤリス Rally2 で初優勝を飾った。



2018 年からニセコ町周辺で開催されている「ARK ラリー・カムイ」も今年で 8 年目、地元の協力もあり地域に定着した大会としてますますの盛り上がりを見せている。今年は蘭越町の林道に加え、京極町にも初めて SS(スペシャルステージ)を設定。さらに蘭越町中心部にも特設のショートステージが設けられ、多くの町民がラリー車の迫力ある走りを楽しんだ。

SS は 2 日間で全 11 本を設定、合計距離は 102.37km。グラベルかつ 100km 以上ということで規定によりシリーズポイントには 1.5 の係数がかけられるため、シリーズを戦う上でも重要度の高い一戦となる。また、新設された京極の SS は大会最長となる 16.01km、この道にはターマック(舗装路)区間も含まれ勝負どころになると目された。

競技は 5 日(土)にスタート、蘭越町は最高気温が 29.4℃に達する暑さとなった。奴田原選手組はオープニングの SS1 を 2 番手で終えると、続く SS2「ORCHID SHORT 1 (12.55km)」でライバルを 3.3 秒引き離すステージベストを獲得。SS3「KNOLL 1 (7.77km)」も 4.2 秒差をつけて連続ベスト、時間とともに気温と路面温度も高まる中で「ADVAN A053」の高いポテンシャルを活かした快走が続く。

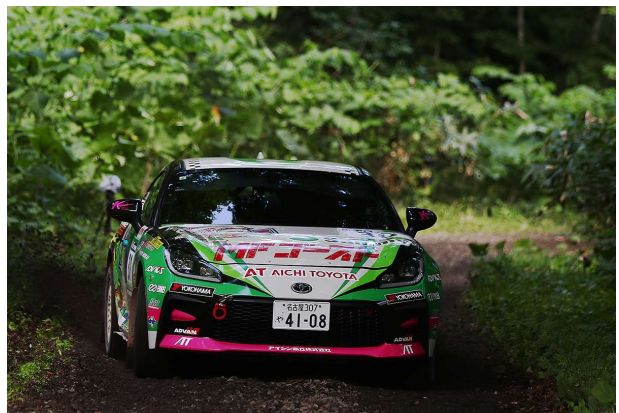
サービスをはさんで午後のセクションに入っても勢いが留まることは無く、ノートラブル、ノーミスで 7 本の SS を走りきり、2 番手に 28.6 秒の差をつけてトップで初日を終えた。



一夜明けた 2 日目の 6 日(日)も、蒸し暑さを感じる一日となった 2025 年の「ARK ラリー・カムイ」。この日は 4 本の SS を設定、新設された京極町のステージ「SUNFLOWER (16.01km)」も 2 回走行する。

競技 2 日目のオープニングとなる注目の「SUNFLOWER」の 1 回目、奴田原選手組は 2 番手に対して 8.2 秒と 1km あたり約 0.5 秒上回る速さを見せて、本大会 5 回目のステージベストをマーク。ライバルとの差を 43.4 秒に拡大、主導権をガッチリと握ってフィニッシュを目指す。そして「SUNFLOWER」の 2 回目でもステージベストを叩き出し、最終的に 2 番手に 55.8 秒の大差をつけてトップでフィニッシュ。

昨年の開幕戦から最高峰の JN-1 クラスにトヨタ・GR ヤリス Rally2 を投入して戦う奴田原選手／東選手組が、北の大地で待望の Rally2 マシンでの初優勝を飾り、9 月に開催される次戦「RALLY HOKKAIDO」に向けてさらなる活躍を期待させる結果を残した。



また、エンジン排気量 1500cc 超 2500cc 以下の後輪駆動車で競われる JN-3 クラスでは、ディフェンディングチャンピオンで今年もシリーズランキングリーダーに立っている山本悠太選手／立久井和子選手組(トヨタ・GR86)が強さを見せた。昨年はトップを快走していたが最終 SS でマシントラブルによるリタイヤを喫しているが、その借りを返すという強い意気込みで臨んだ今年の「ARK ラリー・カムイ」。

競技が始まるとオープニングから圧巻の 5 連続ステージベストで、初日を 20.1 秒差のトップで終えた。2 日目もその勢いが留まることは無く、4 本の SS すべてでベストを刻み、全 11SS のうち 10 本の SS を制する強さを見せて今シーズン 4 勝目を獲得。奴田原選手組と並んでのフルポイント優勝、シリーズランキング争いで連覇に王手をかけることに成功した。

■ 奴田原文雄 選手 (ADVAN KTMS GR ヤリス Rally2)

【今回の成績：JN-1 クラス 優勝】

今シーズン初のグラベルラリーでしたが、マシンのセットアップが決まれば十分勝負になると考えていました。今回は粘土質の滑りやすいグラベルからターマック区間まで様々な路面がありましたが、「ADVAN A053」は路面を選ばないオールラウンドな性能を持っているので、タイヤに助けられた部分もあったと思います。

気温や路面温度も上がる中でターマック区間も多かったラリーですが、タイヤについて暑さの影響を感じることは無く、「ADVAN A053」はこれまでの実績もありますから安定感に支えられて戦えましたね。

SS2を終えてトップに立ち、差を確保したことで無理せず確実に走ってタイムを出して行けました。車の動きも良くて、Rally2 はセットアップの幅がとても広いのですが、ここまで蓄積したデータも活かして良い車を仕上げてくれているチームの努力が実る結果にもなりました。

次戦の「RALLY HOKKAIDO」は今回と同じグラベルですが、アブレーションスピードも上がるので車のセットアップもより煮詰めて、連勝を目指していきます。

■ 山本悠太 選手 (Sammy K-one ルブロス YH GR86)

【今回の成績：JN-3 クラス 優勝】

去年の「RALLY HOKKAIDO」までに車のセットアップがかなり決まっていたので、前戦のトラブルによって今回はブツケ本番のような状態でしたが不安は無く臨めた「ARK ラリー・カムイ」でした。金曜日のレッキ(下見走行)では各 SS を見て「荒れた展開になるかも」と思いました。それはターマック区間の多さや道の狭さによるのですが、実際に競技レベルで走ってみると「そこまでリスクな道でもないな」という印象で。新設された京極の SS は、1 回目の走行では場所によって滑りやすさの違いも感じましたが、2 回目では思ったほどワダチが掘れていなくて、気持ちよく走れました。

初日を終えてトップでしたが、本音ではもう少しマージンを稼ぎたかったところでした。それは 2 日目に鬼門となりそうな京極の SS があったからですが、結果的にはその京極で 2 回ともステージベストを獲れたので良かったです。

トップで最終 SS を終えましたが、ラリーはまだ終わりません。しっかりサービスパークへ戻って最終 SS へ戻らなければなりませんから、今回も最後まで気を引き締めて走りきりました。

これで連覇にも一歩近づけて、嬉しいと同時にホッと一安心した、そんな今年の「ARK ラリー・カムイ」でした。

・横浜ゴム モータースポーツ Facebook : <https://www.facebook.com/YRCmotorsports>

・横浜ゴム モータースポーツ X : [https://x.com/Yokohama\\_sport](https://x.com/Yokohama_sport)

・横浜ゴム モータースポーツ Instagram : [https://www.instagram.com/yokohama\\_motorsports/](https://www.instagram.com/yokohama_motorsports/)